

## 裾野市総合計画等評価委員会の意見

## 1 総合計画

No.	委員名	委員からの意見
<b>【施策の大綱1】</b>		
1	望月委員	<p><b>(1-1 健康づくりの推進)</b> 「健康づくりへの支援の満足度」が△になっているが、これは若い人たちを含む市民アンケートの結果を使用しているため、全体的な満足度はもっとあると思う。指標の捉え方を改善した方が良いのではないか。</p> <p><b>(1-4 地域における福祉の推進)</b> 「民生委員・児童委員の相談指導件数」は、目標値3,000に対して実績値が2,417ということで△になっているが、相談件数が減っている方が良いのではないか。これについても、指標の捉え方を改善してもらいたい。</p>
2	山本委員長	<p><b>(1-1 健康づくりの推進)</b> 評価方法が市民に対する無作為抽出のサンプリングとなっているが、利用者に評価してもらうなど、評価の方法を検討した方が良い。</p>
<b>【施策の大綱2】</b>		
3	山本委員長	<p><b>(2-1 学校教育の充実)</b> 「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」について、小学生は期待値を上回っているが、中学生が期待値を下回っているというのは、自分の将来や進路に対して、より現実味を持つようになってくる段階で達成ができなくなっているということである。これは、子ども自身に対して、本物のキャリア教育という意味での本物との学習がうまく機能していないのではないか。ここに関しては、教員研修を含め、何かしらの改善策が必要で、クラス全体で同じことをやるというやり方はダメだと思う。</p> <p><b>(2-3 青少年の健全育成)</b> 「青少年健全育成に関する事業参加者数」の数値が下がっていることについて、1回1回のイベントでどうにかしようということではなく、何かしら継続して参加者がどんどん広がっていくような事業展開が必要ではないか。</p>
<b>【施策の大綱3】</b>		
4	一之瀬委員	<p><b>(3-5 防犯体制の充実、3-8 広域連携による消防・救急体制の充実)</b> 「防犯体制の充実」という意味合いでは、同報無線やまもメール等により市民に周知するなど、持てるツールを有効に活用している。 「消防団団員数」は定数に足りていない状況ではあるが、周辺市町と</p>

		<p>比較すると充足率は高く、団員確保に向けて団員・行政・区長会が一丸となって努力している。</p> <p>そういうことから、この2つの指標に関しては、△ではなくもう少し良い評価でも良かったのかなと思う。</p>
5	市川委員	<p><b><u>(3-3 環境負荷の少ないまちづくりの推進)</u></b></p> <p>「環境イベント・環境教育講座の開催回数」については、市役所の職員が頑張っていて、やればやっただけ盛り上げることができるので、◎というのは非常に良い。</p> <p>「市民1人1日当たりのごみの排出量」については、結構良いところまで数字が来ているので、今後は、事業系一般廃棄物の排出量を評価の視点に入れても良いのではないかな。</p>
<b>【施策の大綱 4】</b>		
6	藤井委員	<p><b><u>(4-1 裾野らしいまちづくりの推進、4-2 活気に満ちた市街地整備の推進)</u></b></p> <p>立地適正化計画、土地区画整理事業の事業計画の変更が着実に達成できたのは評価できる。これらがどう実現できてくるかというところに、まだ難しさがあると思う。</p> <p><b><u>(4-5 持続可能な公共交通の確保)</u></b></p> <p>「バス路線や便数に満足している人の割合」が△になっているが、これは頑張ってもなかなか難しい事情が社会的な背景としてあり、バス事業者そのものが維持継続できない状況が裾野の場合には、一つの大きな負担になっている。そういった中で直接的に市民の満足度を上げるというのは、行政が取り組んだとしてもなかなか難しいだろうと率直に思う。</p> <p><b><u>(4-7 豊かで良質な水道の安定的確保、4-8 衛生的で快適な下水道の整備)</u></b></p> <p>裾野の場合は、広域な市街化調整区域での水道といった問題を含めて考えなければならないため、他の自治体が抱える整備計画よりも非常に大きな負担を抱えているが、そういった中では、よく頑張っており、「下水道整備面積の拡大」についても、目標には至っていないが着実に進んでいるという傾向は見えている。</p>
7	市川委員	<p><b><u>(4-8 衛生的で快適な下水道の整備)</u></b></p> <p>「下水道整備面積の拡大」の他に、接続率という視点があった方が良いのではないかな。</p>

【施策の大綱5】		
8	岩瀬委員	<p><b><u>(5-4 観光産業の振興)</u></b> 「観光施設の利用者数」については、そもそも観光施設が少ないということもあるが、富士山資料館など富士山に関する重要な施設もあるので、認知度を上げるようなPRを検討する必要があるのではないかな。</p> <p><b><u>(5-5 地域資源磨き・魅力発信の推進)</u></b> 一度、東京に出た学生が戻ってきたいと思えるような職の受け皿を創っていく必要があるのではないかな。</p>
9	出口委員	<p><b><u>(5-1 商工業の振興)</u></b> 「スソビズの相談件数」は、件数的には上がっているが、どのぐらい起業したのかということになると、まだまだ商工業の振興というようなところまで結びついていないのではないかな。</p>
10	西野委員	<p><b><u>(5-5 地域資源磨き・魅力発信の推進)</u></b> 人口の社会減に関して、地域を支える人材が外に出て、戻ってきてくれる、あるいは地域でそのまま就職するという形で、支える人材がいないと地域は今後ますます厳しくなるため、ここを分析して、社会減対策を自治体として真剣にやらなければいけないと思う。</p>
【施策の大綱6】		
11	西野委員	<p><b><u>(6-5 行政経営の確立に向けた人材の育成と組織体制の強化)</u></b> これまで職員の職務満足度の低下を問題視してきたが、行政改革というのは色んなフォーマットを使ってやるし、間接業務になるため、これの負担感、疲労感というのがとても厳しく、そういう意味でも職員の疲れが見られるのではないかな。</p>
12	山本委員	<p><b><u>(6-5 行政経営の確立に向けた人材の育成と組織体制の強化)</u></b> 職務満足度というのは、システムの影響をすごく受けるものである。働いているシステムが硬直化しているのかどうかということも、一つ視点を入れて考えないと、朝から晩まで働くということに、特に若者は耐えきれないと思う。 在宅勤務など業務の形態も考えて職務満足度の改善を考える必要があるほか、管理職の方も自身のメンタルヘルスをケアしながら、皆さんが楽しく仕事ができるような職場環境づくりを頑張ってもらいたい。</p>
【その他】		
13	山本委員長	<p><b><u>(全体を通して)</u></b> 調査方法や評価指標を検討するプロジェクトを立ち上げた方が良い。</p>

## 2 総合戦略

No.	委員名	委員からの意見
<b>まちづくり“共生”</b>		
1	望月委員	<p><u>(裾野駅前整備等まちづくり)</u></p> <p>全体的に遅い。駅前を見ても、もう少し気合いを入れていけないのだろうか。長泉等、あまり余所と比較してはいけないが、やはり寂しい限り。</p>
<b>ひとづくり“共育”</b>		
2	望月委員	<p><u>(共生社会の実現)</u></p> <p>地域の絆が非常に希薄化してきている。富岡地区では、老人クラブのリーダーがいなかったからということで、老人クラブを解散してしまった例がある。昔は、リーダー育成養成講座みたいなものをして、そこから区長が出たりした時代があったので、人づくりの問題というのは、ある程度そういう目的を持ってやらなければいけないのではないか。</p>
<b>しごとづくり“共栄”</b>		
3	岩瀬委員	<p><u>(裾野ブランド)</u></p> <p>裾野ブランドが市外の人たちに認知されていない。また、市内に住んでいる人たちの中でも、あまり浸透していない。</p> <p><u>(裾野市の認知度)</u></p> <p>県外に行くと、裾野から来たと言っても分かってもらえない。富士山と絡めてもっとプロモーションができるのではないか。</p>
4	市川委員	<p><u>(「地域資源を活用した新商品・サービス創出件数」の捉え方)</u></p> <p>ここの指標は本来、新商品・サービスの「創出件数」であって、「補助対象の件数」ではないのではないか。</p>
5	西野委員	<p><u>(大手事業所との協調)</u></p> <p>裾野市は大手事業所がどのように対応するかによって、大きく影響されてしまう「フラワーポット型産業構造」であるため、今ある大手事業所をいかに留め置き、地域コミュニティに溶け込んでもらい、根を張ってもらおうかといった対策が必要ではないかとこれまで申し上げてきたわけだが、大手事業所と協調するような政策を地方創生でもっと進めて行くために、その辺をどのように考えているか。</p>